

お茶の茶の園

こんにちは、
葉っぴい向島園園主 向島和詞です。
いつも、当園のお茶をご愛飲して頂き、ありがとうございます。



又、上場も、スタッフ

今年の冬への入り口は、寒くなったなあ~と思ったら暑くなったりと温度変化が大きく、体調を崩しそうな冬への入口でした。
温度変化が大きい為、茶畑には夜露がびっしりでした。10 時くらいには、露も乾燥するのですがそれまでは濡れて大変です。今年は、春先にほど良い寒さがあり、夏にはしっかりと雨も降り、秋口には少し病気が出ましたが、お茶にとっては良い年でした。
しかしながら今年は、本当にいろんなことがありました。
大きな天災から人災、世界中の信用不安などマスコミ各社は、報道ネタに困らなかったでしょう...



当園も、震災による原発の問題には大きく頭を悩まされました。当園のお茶では、基準値以上は出なかったのですが、狭山や足柄、静岡の中東部地域での、基準値以上の茶葉検出の報道は、茶業界に大きな風評被害を生みました。実際体験してみて、風評被害は実質被害並に厳しいものだと思います。お茶に限らず、一次産業・二次産業も大きな打撃を受けました。

特に、世界一厳しい基準の有機栽培基準での生産をしている当園には、食や環境問題に意識の高いお客様がたくさんいらっしゃるから、「基準値以下だから、安全なのか？」など厳しい声もたくさん頂きました。

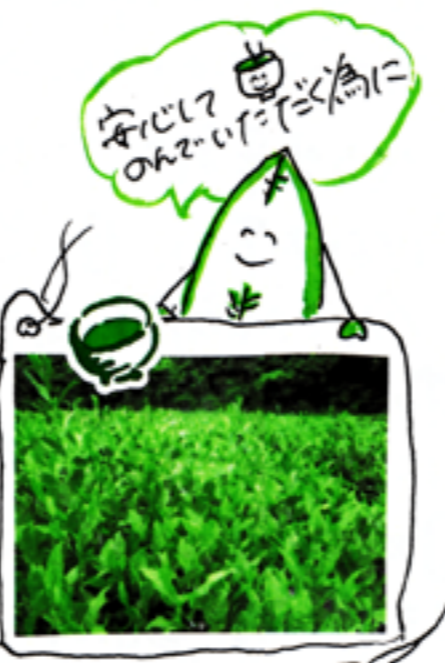
また、「今まで散々農薬漬けのものを食べてきたのに、今さら放射能で騒ぐのはおかしい。農薬の危険性は、放射能と同じように、何十年も先は安全が保障されていないのに。」などとの声も頂きました。

私は今、震災や放射能被害、世界的不況などの状況は、最大のピンチだと考えます。おそらく戦後、最大の悪化であり今なお進行形です。でも、起こってしまったことはどうしようもありません。

だから、最大のチャンスに変えるしかないんです。
ピンチはチャンスです！

今まで安全神話が崩れなかった原発の安全神話も崩れ、国民一人一人が意識を持ち始め、助け合いの中で、人と人とのつながりの暖かさを、被災した人もそうでない人も、感じ、大切なのは金じゃなくて、愛だって。

今このままこの雰囲気にもまれて行けば、放射能に過剰反応し国内産より



安心してのんびりお茶を飲むために



下の写真のように、中切りしました。

*深い剪定

海外産の物を買う。しかしそこには、遺伝子組み換えや多くの、残留農薬に危機感を感じる。TPPが追い打ちをかけ、国内農業は衰退し、畑が管理されなくなり水害が起こり住宅地が壊滅します。

もし、日本の国内自給率が 10%を割り、田畑が管理されなくなれば、毎年水害が起きることが予測されています。その水害対策の為に毎年一世帯当たり800万円の支出をしなければいけない事態になることも、計算されています。(田畑は、膨大なダム効果があるため。また、夏場は気温上昇を防ぎます。)

また、異常気象により相手国が輸出できなくなれば日本人は、餓死です。今、実際に一部の食品は相手国が近年の異常気象により生産量が減っていて、輸出禁止になっています。

今、世界中どこを探しても放射能汚染から免れている土地やものはありません。それは、今までの核実験や原発事故による影響で、世界中が汚染されているからです。日本国内も同じくです。昨年のもを計っても、全ての農作物から検出されます。昨年までは不検出と言うのは、計り方があまいからです。

放射能測定は、70000 秒計らないとしっかりとした安定した結果はできません。しかし今、民間機関が計っているのはせいぜい多くて 1000 秒。これじゃ出ませんよ。そのものを人が摂取しても、1000 秒じゃ排出もされません。当園は、70000 秒計っています。この違いは、大きいです。

当園では、放射性物質を畑から除去するため、一番効果がある中切り更新を茶園で行い、茶葉層の刈り込みによる放射性物質除去などを新茶後、行いました。その結果、ほとんどの放射性物質を除去することに成功し、もうすでに去年並みの数値となってきました。

あともう少しで検出限界という域まできました。今後は、微生物を利用するなどして、畑をもっとグリーンにしていきたいと思ひます。

生産の仕方や数値など、色々な情報も大切かもしれませんが、一番は生産者と顔の見える環境が一番大切であり、本当の安全・安心があるんじゃないかと思ひます。

今年も、何があろうと一生懸命お茶は成長してくれ、私たちの恵となってくれました。

今年一年を振り返り、おいしいお茶 味わって頂けたら幸いです。

2011.11. (和詞)